

毎月一四十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



和清山香 會所 印刷所 編輯人 發行所 印刷所

早川博士を送る

阿形輝司

早川氏は明治四十五年札幌農科大学を卒業せらるゝと同時に濶淵たる元氣を以て我が校に赴任せられ、以來二十四年殆んど氏の生涯の過半を本校の爲めに傾注せられ、内は養蠶製絲の渾沌たる經營を開拓して堂々たる體系の學問と爲し、教務を刷新して生氣を勃興し顯著なる進展を爲さしめ、外は全國に亘りて講演行脚の勞を取られ、以て當業者の蒙を啓き我々の聲譽を全國に宣傳せられた等、氏の業界及我々に残された功績は實に偉大なものと云はなければならぬ。

早川先生の著書

先生の著書は頗る多数に上るが其の重要なものを挙げて左の如くである。
生絲と其貿易 同文館
養蠶労働經濟論(博士論文) 同文館
蠶絲業經濟講話 同文館
製絲經濟學 同文館
組合製絲の理論と實際 明文堂



早川先生の御略歴

先生は明治十八年十一月前橋市に生れ、明治四十五年七月札幌農科大学卒業、大正元年九月本校講師、五年九月教授、同年十月蠶絲業經營學研究の爲め滿二ヶ年間米國へ留學を命ぜらる。八年九月歸朝、十一年九月養蠶労働經濟論にて農學博士の學位を受く。昭和三年五月より七年四月迄教務課長を勤めらる。昭和十年十二月組合製絲群馬社々長に就任せらるゝに付き退官せらる。然して二十餘年間教育に盡した功勞に依り高等官二等に任ぜられ從四位に叙された。

今回突如として群馬社々長に轉任せられ本校を去るに至つた。送る者も送らるゝ者も多年の過去を回想して感慨無量であらう。學校としては一大明星を失ふの想ひである。世上稍もすれば送る者は難癖をつけて去る者に泥をかぶせ、送らるゝ者は後足で砂と言ふ如き淺ましき醜聞あるも、我々に於ては常に清らかに滑らかに行はれつゝあるは吾人の大に悦ぶ所である。聽く處に依れば群馬社は万餘の養蠶家を以て社員とすと、實に一大家族である。時恰も蠶絲業の非常時に際會し業者の困難の期に當りて社長の重任を擔はるゝ誠に御苦勞と言はなければならぬ。然れども氏の頭腦の明敏、潤達の手腕、操縱蠶絲業恐慌と之が對策 信濃毎日新聞社 本邦蠶絲業と米國絹業 明文堂

早川博士の想出

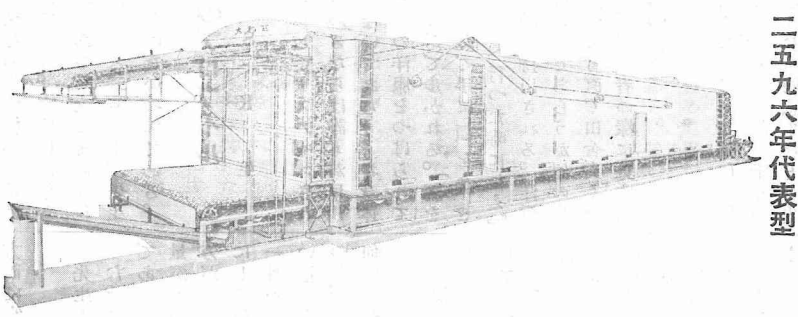
井上柳梧

多年御交誼を忝くしたる早川博士が群馬社々長として榮轉せられ愈々袂別するに謂ふ時になると實に謂ひ知れぬ何にかを感じて言葉も出てなくなる。實に別れると謂ふ事程いやなものはない。送る人も送らるゝ人もいざとなると今迄の事は皆忘れてしまつて一種の感に打たれて無言になる。其中に汽車は遠慮なく出て行つてしまつたものである。上田の驛頭に博士を御送りしてから未だ日が淺いで、尙ほ學校に居らるゝ様な氣がして想出と謂ふ時期に到達して居ない。謂はゞ未だに無言の時期である。さつぱり腦裏に浮んで來ないのであるが攻めらるゝ儘に強いて二、三を書き事とする。

早川博士と謂へば誰しも思ひ出すは其能辯である。全國にばらばら其の能辯を振つて産業組合を論ぜらる。極めて平易にして解り易いので、農村の人々の大なる歡迎を受けた。夫れで博士の名は農村の方によく知られて居る。從て博士の我國産業組合に残された功績は偉大なものである。校友會の辯論部長として其雄辯を以て大に部員を指導し部を振興せしめられた事は能く知られて居る處である。教授會の時などには必らず一言なかるべからざるの論者で、石倉先生と好一對であつた。時には議論に花が咲いて校長先生も收拾に困られた様な事もあつた。今や博士の姿が見えないので淋しくも覺ゆるが御蔭で會も早く終りを告げる事も度々ある。

山本三六郎著 化學純絹絲の完成 工業的完成 伊太利蠶絲網業の衰退原因と其の現況 菅原勇治著 蠶絲業法規要論 改正 2.30 1.50 0.30 市田上縣野長 會究研學科絲蠶 所行發 [振替長野6413番]

現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



【各種型録贈呈】

二五九六代表型

製作發賣元 株式會社 大和三光商會 東京京橋區京橋三丁目二番地 電話京橋(56)五三二〇番

- 營業課目 特許大和式自動輸送乾繭機 特許大和式自動人絹乾燥機 特許帶川三光式乾燥裝置 特許やまざほイ 特許サンケー式濾過淨水裝置 特許サンケー式廢湯吸熱器 特許サンケー式高壓ポンプ 特許サンケー式ト

れた事は能く知られて居る處である。教授會の時などには必らず一言なかるべからざるの論者で、石倉先生と好一對であつた。時には議論に花が咲いて校長先生も收拾に困られた様な事もあつた。今や博士の姿が見えないので淋しくも覺ゆるが御蔭で會も早く終りを告げる事も度々ある。博士は發句も和歌も得意であるが又時にば蘭も書かれる。暇があれば畑を耕されたる事があつたが、盆栽には餘り興味を持たれぬ様だつた。會で御酒が廻れば羽織を裏返しに着られて鯛釣りの狂言が始まる。仲々堂に入つたものである。先日の博士の送別會の折にも最後に鯛釣が演ぜられた。蓋し是れが學校に於ける博士の狂言の最後のものと云ふと非常に名残惜しい氣持がした。 から風すさぶ群馬の野に新しき生涯に御活動される博士の御健康と御成功とを祈りて此稿を終る次第である。

恩師早川先生を送る

蒲生 俊興

吾が蠶絲業はその技術と經營、生理と經濟との二面に於て、影の形に沿ふ如く互に車の兩輪となつて、密接不離の立場で研究さるゝ處に眞の向上發展のある事は敢て申す處もない所である。而も之等の點に關し、本邦蠶絲界をして夙に是が認識を深めしめた第一人者は何と申して恩師早川先生の右に出づる者は無いのである。此の意味から母校が早川先生を所有したことは寔に母校の名譽であり、且大きな誇りでもあつたのだ。然るに同先生には昨秋群馬縣黨の熱烈なる懇望狀し難く、二十有餘年間、多數の育英に多大の貢獻をせられた母校の教壇を離れて組合製絲群馬社長に就かるゝ事となつたのは洵に母校のために惜別の情にたへない次第である。されど先生御自身から見れば、殆んど畢生の御事業として之れ迄御研鑽を積まれた組合製絲事業に關する理論の實際化でもあり、その最も得意とせらるゝ斯界の方面に自ら陣頭に立たれて、その自由な天地に如何ばかりか快腕を奮はれ、馳て邦家蠶絲業の爲に益々御盡瘁あらるゝことを想へば、同先生を送ることも、強ち單なる損失のみでもあるまいと考へられる。

早川先生の送迎の辭

林 貞三

母校創立間もなく來られた早川直瀨先生は此度御郷里群馬縣官民の要望に依り産業組合群馬社長として榮轉された。

母校在職廿有四年間、大正五年に教授に任ぜられ、六年から八年には歐米留學九年に農學博士の學位を得、昭和六年には教務課長の要職につき愈々重きを加へ何れ將來は高等專門學校長とは自他共に許した先生であつた。母校にも尙上席教授も居られ旁々先生自ら出られたものでなく全く御郷里の要請切なるものあつて遂に意氣に感ぜられた結果と信ずる。

早川先生の私生活の二三

T 生

早川先生は人も知る前橋藩城代家老の名門の出。十人餘りの御兄弟の長男であられた關係上先生御自身御勉強の傍ら御兩親に代つてそれ等の方の教育や身の振方に迄心配され爲めに人知れぬ苦勞をされたやうだ。當時先生は新藤町や片平町の小家に生まれ盛に筆をとられたし勉強にも言動にも非常に熱があつた。知らぬ人は先生も頗る式の畜財家と見た向も多かつたらう。

先生は元來勢力絶倫で運動會にはメリヤスシャツになつて徒歩競争に出場され和田先生等と張り合つた事は御承知の通りだが、片平町から七軒町の島津さんの邸宅に越されてからと云ふものは重荷を下された爲もあらうが、御忙しい中に諸曲、仕舞、狂言もやれば陶器の鑑賞塊集もやる、さては刀劍等もと云ふ風に趣味の廣汎なる事驚くべきものがあつた。殊にお酒に至つては日本中の銘酒を御存じで従つて酒量も大したものだった。

先生は生れつき頗る人の好い方と思ふそれが環境に依つて大いに影響されて校外に出て外部に接し、内にあつては趣味の生活をされる様になるにつれ先生の代に於けるシーザー、アルトナスなどと高唱した凄味や危険性が全くとれて非常に妥協的になられた。妥協的過ぎる位の所さしいほの見えた。

先生は又本校を世間にプロパガンダする意味に於て最も偉大なる存在であつた。三才の童子と云へども井上先生と早川先生の名は知らぬものはなかつた。むべなるかな井上先生の絹絲化學と早川先生の蠶絲業經濟とは本校の誇り得る一大特色であつたからである。先生には此の大旗を掲げ或は學校に或は官廳に或は組合或は地方に講演又は指導に東奔西走せられ殆んど足跡を印せざる處なく、席の温る暇が無かつた。

斯の如く先生は蠶絲經濟研究の先覺者であり組合製絲研究の第一者である。その先生が組合製絲として最大なる群馬社長として赴任されたのである。眞に意義ある事と云はなければならぬ。

本校で最もスマートでリファインされた紳士は誰かとホめるならば誰しもが早川先生を推す異議がないであらう。お身体にヒツタリあつた納の洋服をつけられてゴムマリの様にハズんで歩かれる。腰を降される時は足を組んで手に頸を載せ「僕がねえ、アメリカへ行つた時にねえ」と直ぐにアチラの話を出される。洋行されたのは大分古い頃であらうが他の先生が皆洋行から歸つても直ぐ田舎臭くなつて行く中に常に新歸朝者の様に見えたのが早川先生であつた。

先生は又本校を世間にプロパガンダする意味に於て最も偉大なる存在であつた。三才の童子と云へども井上先生と早川先生の名は知らぬものはなかつた。むべなるかな井上先生の絹絲化學と早川先生の蠶絲業經濟とは本校の誇り得る一大特色であつたからである。先生には此の大旗を掲げ或は學校に或は官廳に或は組合或は地方に講演又は指導に東奔西走せられ殆んど足跡を印せざる處なく、席の温る暇が無かつた。

然して先生の御講演は獨特の能辯にて圓滑輕妙を極め新味に溢れ難解の理論もよく大衆に理解する如く話され、長時間に亘るも厭かしむる處が無かつた。此の方面は實に先生は天才的であつた。

針塚校長は恐らく先生の轉出を大小の差こそあれ學校を棄立つ卒業生の就職と變りない心境で送られた事と思ふ。吾々として同じ心持で心から先生をお送りもし又新たな賛助會員たる先生をお迎へする次第である。

先生は元來勢力絶倫で運動會にはメリヤスシャツになつて徒歩競争に出場され和田先生等と張り合つた事は御承知の通りだが、片平町から七軒町の島津さんの邸宅に越されてからと云ふものは重荷を下された爲もあらうが、御忙しい中に諸曲、仕舞、狂言もやれば陶器の鑑賞塊集もやる、さては刀劍等もと云ふ風に趣味の廣汎なる事驚くべきものがあつた。殊にお酒に至つては日本中の銘酒を御存じで従つて酒量も大したものだった。

先生は生れつき頗る人の好い方と思ふそれが環境に依つて大いに影響されて校外に出て外部に接し、内にあつては趣味の生活をされる様になるにつれ先生の代に於けるシーザー、アルトナスなどと高唱した凄味や危険性が全くとれて非常に妥協的になられた。妥協的過ぎる位の所さしいほの見えた。

先生は又本校を世間にプロパガンダする意味に於て最も偉大なる存在であつた。三才の童子と云へども井上先生と早川先生の名は知らぬものはなかつた。むべなるかな井上先生の絹絲化學と早川先生の蠶絲業經濟とは本校の誇り得る一大特色であつたからである。先生には此の大旗を掲げ或は學校に或は官廳に或は組合或は地方に講演又は指導に東奔西走せられ殆んど足跡を印せざる處なく、席の温る暇が無かつた。

早川先生のプロフィール

S K 生

本校で最もスマートでリファインされた紳士は誰かとホめるならば誰しもが早川先生を推す異議がないであらう。お身体にヒツタリあつた納の洋服をつけられてゴムマリの様にハズんで歩かれる。腰を降される時は足を組んで手に頸を載せ「僕がねえ、アメリカへ行つた時にねえ」と直ぐにアチラの話を出される。洋行されたのは大分古い頃であらうが他の先生が皆洋行から歸つても直ぐ田舎臭くなつて行く中に常に新歸朝者の様に見えたのが早川先生であつた。

先生は元來勢力絶倫で運動會にはメリヤスシャツになつて徒歩競争に出場され和田先生等と張り合つた事は御承知の通りだが、片平町から七軒町の島津さんの邸宅に越されてからと云ふものは重荷を下された爲もあらうが、御忙しい中に諸曲、仕舞、狂言もやれば陶器の鑑賞塊集もやる、さては刀劍等もと云ふ風に趣味の廣汎なる事驚くべきものがあつた。殊にお酒に至つては日本中の銘酒を御存じで従つて酒量も大したものだった。

先生は生れつき頗る人の好い方と思ふそれが環境に依つて大いに影響されて校外に出て外部に接し、内にあつては趣味の生活をされる様になるにつれ先生の代に於けるシーザー、アルトナスなどと高唱した凄味や危険性が全くとれて非常に妥協的になられた。妥協的過ぎる位の所さしいほの見えた。

先生は又本校を世間にプロパガンダする意味に於て最も偉大なる存在であつた。三才の童子と云へども井上先生と早川先生の名は知らぬものはなかつた。むべなるかな井上先生の絹絲化學と早川先生の蠶絲業經濟とは本校の誇り得る一大特色であつたからである。先生には此の大旗を掲げ或は學校に或は官廳に或は組合或は地方に講演又は指導に東奔西走せられ殆んど足跡を印せざる處なく、席の温る暇が無かつた。

學校創立間もなく來られた早川直瀨先生は此度御郷里群馬縣官民の要望に依り産業組合群馬社長として榮轉された。

先生は元來勢力絶倫で運動會にはメリヤスシャツになつて徒歩競争に出場され和田先生等と張り合つた事は御承知の通りだが、片平町から七軒町の島津さんの邸宅に越されてからと云ふものは重荷を下された爲もあらうが、御忙しい中に諸曲、仕舞、狂言もやれば陶器の鑑賞塊集もやる、さては刀劍等もと云ふ風に趣味の廣汎なる事驚くべきものがあつた。殊にお酒に至つては日本中の銘酒を御存じで従つて酒量も大したものだった。

先生は生れつき頗る人の好い方と思ふそれが環境に依つて大いに影響されて校外に出て外部に接し、内にあつては趣味の生活をされる様になるにつれ先生の代に於けるシーザー、アルトナスなどと高唱した凄味や危険性が全くとれて非常に妥協的になられた。妥協的過ぎる位の所さしいほの見えた。

先生は又本校を世間にプロパガンダする意味に於て最も偉大なる存在であつた。三才の童子と云へども井上先生と早川先生の名は知らぬものはなかつた。むべなるかな井上先生の絹絲化學と早川先生の蠶絲業經濟とは本校の誇り得る一大特色であつたからである。先生には此の大旗を掲げ或は學校に或は官廳に或は組合或は地方に講演又は指導に東奔西走せられ殆んど足跡を印せざる處なく、席の温る暇が無かつた。

學校創立間もなく來られた早川直瀨先生は此度御郷里群馬縣官民の要望に依り産業組合群馬社長として榮轉された。

先生は元來勢力絶倫で運動會にはメリヤスシャツになつて徒歩競争に出場され和田先生等と張り合つた事は御承知の通りだが、片平町から七軒町の島津さんの邸宅に越されてからと云ふものは重荷を下された爲もあらうが、御忙しい中に諸曲、仕舞、狂言もやれば陶器の鑑賞塊集もやる、さては刀劍等もと云ふ風に趣味の廣汎なる事驚くべきものがあつた。殊にお酒に至つては日本中の銘酒を御存じで従つて酒量も大したものだった。

先生は生れつき頗る人の好い方と思ふそれが環境に依つて大いに影響されて校外に出て外部に接し、内にあつては趣味の生活をされる様になるにつれ先生の代に於けるシーザー、アルトナスなどと高唱した凄味や危険性が全くとれて非常に妥協的になられた。妥協的過ぎる位の所さしいほの見えた。

先生は又本校を世間にプロパガンダする意味に於て最も偉大なる存在であつた。三才の童子と云へども井上先生と早川先生の名は知らぬものはなかつた。むべなるかな井上先生の絹絲化學と早川先生の蠶絲業經濟とは本校の誇り得る一大特色であつたからである。先生には此の大旗を掲げ或は學校に或は官廳に或は組合或は地方に講演又は指導に東奔西走せられ殆んど足跡を印せざる處なく、席の温る暇が無かつた。

學校創立間もなく來られた早川直瀨先生は此度御郷里群馬縣官民の要望に依り産業組合群馬社長として榮轉された。

先生は元來勢力絶倫で運動會にはメリヤスシャツになつて徒歩競争に出場され和田先生等と張り合つた事は御承知の通りだが、片平町から七軒町の島津さんの邸宅に越されてからと云ふものは重荷を下された爲もあらうが、御忙しい中に諸曲、仕舞、狂言もやれば陶器の鑑賞塊集もやる、さては刀劍等もと云ふ風に趣味の廣汎なる事驚くべきものがあつた。殊にお酒に至つては日本中の銘酒を御存じで従つて酒量も大したものだった。

先生は生れつき頗る人の好い方と思ふそれが環境に依つて大いに影響されて校外に出て外部に接し、内にあつては趣味の生活をされる様になるにつれ先生の代に於けるシーザー、アルトナスなどと高唱した凄味や危険性が全くとれて非常に妥協的になられた。妥協的過ぎる位の所さしいほの見えた。

先生は又本校を世間にプロパガンダする意味に於て最も偉大なる存在であつた。三才の童子と云へども井上先生と早川先生の名は知らぬものはなかつた。むべなるかな井上先生の絹絲化學と早川先生の蠶絲業經濟とは本校の誇り得る一大特色であつたからである。先生には此の大旗を掲げ或は學校に或は官廳に或は組合或は地方に講演又は指導に東奔西走せられ殆んど足跡を印せざる處なく、席の温る暇が無かつた。

學校創立間もなく來られた早川直瀨先生は此度御郷里群馬縣官民の要望に依り産業組合群馬社長として榮轉された。

先生は元來勢力絶倫で運動會にはメリヤスシャツになつて徒歩競争に出場され和田先生等と張り合つた事は御承知の通りだが、片平町から七軒町の島津さんの邸宅に越されてからと云ふものは重荷を下された爲もあらうが、御忙しい中に諸曲、仕舞、狂言もやれば陶器の鑑賞塊集もやる、さては刀劍等もと云ふ風に趣味の廣汎なる事驚くべきものがあつた。殊にお酒に至つては日本中の銘酒を御存じで従つて酒量も大したものだった。

先生は生れつき頗る人の好い方と思ふそれが環境に依つて大いに影響されて校外に出て外部に接し、内にあつては趣味の生活をされる様になるにつれ先生の代に於けるシーザー、アルトナスなどと高唱した凄味や危険性が全くとれて非常に妥協的になられた。妥協的過ぎる位の所さしいほの見えた。

先生は又本校を世間にプロパガンダする意味に於て最も偉大なる存在であつた。三才の童子と云へども井上先生と早川先生の名は知らぬものはなかつた。むべなるかな井上先生の絹絲化學と早川先生の蠶絲業經濟とは本校の誇り得る一大特色であつたからである。先生には此の大旗を掲げ或は學校に或は官廳に或は組合或は地方に講演又は指導に東奔西走せられ殆んど足跡を印せざる處なく、席の温る暇が無かつた。

學校創立間もなく來られた早川直瀨先生は此度御郷里群馬縣官民の要望に依り産業組合群馬社長として榮轉された。

先生は元來勢力絶倫で運動會にはメリヤスシャツになつて徒歩競争に出場され和田先生等と張り合つた事は御承知の通りだが、片平町から七軒町の島津さんの邸宅に越されてからと云ふものは重荷を下された爲もあらうが、御忙しい中に諸曲、仕舞、狂言もやれば陶器の鑑賞塊集もやる、さては刀劍等もと云ふ風に趣味の廣汎なる事驚くべきものがあつた。殊にお酒に至つては日本中の銘酒を御存じで従つて酒量も大したものだった。

先生は生れつき頗る人の好い方と思ふそれが環境に依つて大いに影響されて校外に出て外部に接し、内にあつては趣味の生活をされる様になるにつれ先生の代に於けるシーザー、アルトナスなどと高唱した凄味や危険性が全くとれて非常に妥協的になられた。妥協的過ぎる位の所さしいほの見えた。

先生は又本校を世間にプロパガンダする意味に於て最も偉大なる存在であつた。三才の童子と云へども井上先生と早川先生の名は知らぬものはなかつた。むべなるかな井上先生の絹絲化學と早川先生の蠶絲業經濟とは本校の誇り得る一大特色であつたからである。先生には此の大旗を掲げ或は學校に或は官廳に或は組合或は地方に講演又は指導に東奔西走せられ殆んど足跡を印せざる處なく、席の温る暇が無かつた。

友情

石倉新十郎

仲の悪いのを犬猿の如しと云ふがまだ其の實際を見たことはない。犬と猫も可なり親みにくい同士と見える。幼少の頃家に斑と云ふ猫と赤と云ふ犬を飼つたことがある。赤が臺所に入ると斑は香中を丸くして赤を威嚇するし、斑が庭に下りると赤が必ず之れを庭樹に逐ひ上げる。然し斑が椽側の端に蹲まり、赤が其の軒下に寝轉んだのは少しも面倒は起らないのであつた。屋内は斑の領分と心得、屋外は赤の支配下とでも自然きめて居たらしい。互に其れを冒したからつい騒動が起きたのであらう。

を逐ひ拂つた。老年の赤が終に敢へなく果てた時斑が悲痛な聲で啼きながら捜したのには近所の人もほろりとしたものである。犬と猫の仲が悪るさうに見えても本来友情がないのではないらしい。交り方と友情とは別であると思える。犬や猫などには俗に毛嫌ひと云ふがある。近所の犬の中で赤といつても喜ぶるのには越えてあつて、頻りに媚びて来る洋犬には餘り親まなかつた。數町離れた所に黒犬が居て、赤は之れと一番仲が善く黒が来れば尅さへ相手にされなかつたのである。假令交りは久しくとも親しさがさう深くはならなかつた。又殆ど起らなかつたり、反つて交りは淺くとも互の心が引き附けられて離れ難い間となる人は人間の間に於てもある。友情は交る時の永きとも別らしい。

故郷の寺に良く話の合ふ禪僧が居る。墓參の折には必ず寺を訪ねるのが例になつてゐる。この人がまだ鎌倉に修業中であつた頃、所謂修業友達に様々の人が居たと思える。今では將官、代議士、華族の主人、大藏省技師など何れも皆知名の士となつて居る。自分はまだ一度も逢つた事のない人達ではあるが、永い間禪僧から噂を聞き慣れてゐると其の後の消息を聞かない内は何んとなく心が落ちつかない。見も知らぬ又交りせぬ人にも友情は湧くものと思える。

此の禪僧の弟は畫家であつた。文展時代に三等賞を得た程の達人であつたが惜しくも中年で故人となつた。心動かなければ千金を以て頼むても書かなかつた人丈けに平素の暮しは可なり乏しいものであつたらしい。寄食中の藜酒には恐れをなした友人も多かつたと聞く。風雅の友は社會的境遇の懸隔を省みない。友情は利害を超越するものであるとも見える。心通ふ友をもつ人は幸ひである。たとへ年久しく逢ふ事がなくとも又便り絶へ勝ちに過して居ても心樂しむ所がある。

廣く友を持つ人は幸ひである。友は必ずしも生あるものとは限らない。峰行く雲も梢吹く風も心慰む友となる。詩や歌や繪畫は其の友情の溢れてはなからうか。人が此の世に生れて来て初めて得た友は誰でも自分の兄弟姉妹である。決して勝手に求めて得た友ではなく全く天與の賜である。そこには何等の豫期もなく利害交渉もない互の偶然の出逢ひである。然し必然的に生活が共同である以上當然に親和も生れて来るが又葛藤も起らない譯には行かないのである。然し其の共同生活等が如何なる面倒の關係が生じ又波瀾の經過が織り込まれるにせよ必ずそこには深い親愛の情が起つて居る。幼少の時其れが眞に純潔なものであつて如何なる魅惑も決して之れを冒す力を持たないであらう。だが成長して世俗人間に成り濟してしまふといつか此の崇高な兄弟愛さへ世俗の利害觀念によつて傷つけられるばかりでなく中には全く消滅してしまふものもあるやうである。

將に社會に門出せんとする諸子に與ふ

(第十三回卒業證書授與式々辭)

上田蠶絲專門學校長 針塚長太郎

本日當校第二十三回卒業證書授與式を舉行するに當り文部大臣閣下より祝辭を給はり朝野貴賓各位の御臨席を辱ふしたるは洵に本校の光榮として深く感謝するところなり。

本日卒業並修業證書を授與せらるゝ者は
養蠶科 本科三〇名 選科三名
製絲科 全 二四名 全 二名
絹紡織科 全 一名 全 一名
製絲教養養成科 一五名
合計 八十六名なり。

諸子は在校中能く校規を守り校訓に順ひ拮据勉勵の結果今日の榮を受くるに至れるものにして當校は諸子の父兄と共に衷心より欣喜の情を禁する能はざるものなり。諸子今出て、社會の實務に就かんとす。

社會は複雑にして變轉極りなき事恰も航海に風波の定まりなきが如し。如何なる狂瀾怒濤に遭遇するも常に正しく羅針を按し固く舵機を執らば必ずや世海の險を踰えて目的の彼岸に到達すべきを信ず。業を執りて定見なく操志に信念なき時は誘惑頻りに至りて進路を謬り高遠の目的なき時は目前の障礙の爲に蹉跌を免れず須らく目的を高遠にし剛健中正の道に據り能く所志を貫徹せんことを要す。今や吾國運は非常の發達を遂げ寔に躍進日本の呼稱に背かざるものあり。同時に又未曾有の國難に直面しつゝあるは諸子の等しく認むるところなり。則ち將に全世界の重壓は我國に加はらんとするの勢あり。苟も愛國の士は此の眞相を直視して布くも傲慢にせず事を執り

て險阻ならす精勵奮勵科を盡して進み協戮進往國本を培養し皇道精神を發輝して國民利福を進め延て世界の平和に貢獻する底の大國民の襟度を持せざるべからず凡そ國家や社會の隆盛ならんとするときは必ず先づ國民の文藝に音樂に遊戲に皆雄大剛健の閃きを反映せざるはなし。曠て現在我國の世相を見るときは果して如何の感をかかず。諸子は深く思を茲に致さざるべからず。諸子の習得したる蠶絲紡織の事業が國家經濟上如何に重要なかは今更言を俟たず。宜しく鞏固なる自信を以て其の學ぶところに從ひ益々斯業の改善發達に渾身の努力を致し以て上聖恩に應へ奉り下民生の福祉増進に貢獻することを期せざるべからず。茲に諸子の社會の發達に際して所懐の一端を陳べて饒となす。

終には路傍の人の如く心疎くなり、中には欺瞞的友情を持つものさへある様に思はれる。斯様に親疎の差別こそあれ折りには同じく皆懐しい昔の友である。そこには時の經過の中に自然異なつた互の境遇を殆ど無視する友情がある。人が既に社會人となつて職業的に交渉を持つ世人を友とする様になり、殊に家庭を以て交際が複雑になつて来ると、そこに極めて多種多様な心理が起り得るだけに友情もまた極めて複雑な色彩を帯びてくるのは止むを得ないであらう。獨身の間は總ての交渉が單獨であり心理も全く個人的になり得るから簡單である。從つて社會人に對する友情もまた比較的單純であるは自然の結果であらう。住まつて處を相同じする者や職業的勤務を共にする者は自ら心相通じ感を感じ得る所がある筈である。事に共鳴する處があれば必ずそこには親和があり、其れが即ち相互の友情ではあるまいか。だから共鳴同情の積算によつて友情は益々高められて行くのであらう。

改姓御通知

謹啓春暖の候愈々御清適之段
奉慶賀候
陳者小生儀今般東京市杉並區
東田町一丁目三十三番地居住
飯塚太郎の養嗣子と相成り改
姓致候に就ては將來共一層の
御交誼御鞭撻相賜り度奉願上
候
先は乍略儀以誌上改姓の御挨拶申進度如斯御座候 敬具
昭和十一年四月吉日
淺見改め 飯塚 安治

人が家庭を持つやうになつて妻子までが互に交際的關係を結ぶ事になると親和の度は一層深められ友情は益々高められて行く筈である。然し家族となつて既に其れが複雑であるだけに親和を阻害する素因も却つて多くなり得るのである。妻子の感情問題が因をなして主人同士の友情を書きなすとは限らないであらう。互に家庭を持つたが爲めに却つて温かつた昔の友情まで失つてしまふ悲みを持つ者もあるであらう。即ち友は去りけり吹く風に、胡蝶ひらひら舞ひ靡くごとく、臘月やまだ耳にある友の聲

千枚漫語

千葉 高 島 生

三月二十日出張先へ役所から電話で、『二二七貴地着針塚』と云ふ電報を移送して来た。...

史汀餘稿

草野史郎

四、櫻窓漫筆 題して櫻窓漫筆といふ。蓋し本號は櫻花の月なればなり。

例年であれば四月三日の祭日にはモウ満開なのに今年はどういふ手違ひか冬の堅い苔が今もそのまゝである。...

春の氣分だ、試みに街を漫歩してみ給へ、流行の尖端を走る呉服屋、洋品店の飾窓、カフェー、料亭、食堂等の室内は何れも春爛漫たるものがある。...

然し何といつても春は櫻だ、日本の春から櫻花を除けば恐らく後に残るものはないであらう、雲かともがう遠くの眺め吹雪を浴びながら花の隧道を行く氣持ち

つた。

千葉縣は千曲會東京支會に屬する。その内縣内在任の會員を御披露申上げて置

高島秀男(蠶2) 千枚漫語の主人公、千葉縣へ来てからも十六年になる。...

田中福雄(蠶2) 二、三年前蠶試技師をやめて恩給を貰ひながら親戚の味噌屋の番頭に納まり、近頃商買振りを板につ

蕨田得一(絲3) 自分の郡の養蠶業組合へ勤務して、自宅から通つてござる。...

さては夕闇にボンヤリ浮ぶ花を指しての漫ろ歩き等、可ならざるはなく、更に少し世俗に調和するならば花の下に一瓢を傾ける氣分や、花に狂ひ酒に酔ふ粹人(?)を第三の立場で見るとの心境などまた確かに一興たるを失はぬ。

明朗な色香! 潔い散り際! 正に櫻の右に出るものはない。世の多くの入達——殆んど全部といつて差障りはないであらうが——は此の媚爛のみを賞して櫻の持つ悲哀に氣がつかないらしい。...

筆者は或る年——それはもう七、八年も前になるであらう——の晩夏、櫻の落葉を見てしみじみとその悲哀を感じてゐる。...

土用を過ぎたかすぎないのにサラツと足下に落ちた葉の音に驚いて上を見ると太く斜に伸びた櫻の枝に早くも黄色くなつた葉やところ／＼に孔のあいた葉が今

かつたから知らぬも道理、オ蠶の眠起だ

佐瀬旭(蠶6) 鐘紡結城工場勤務であるが、千葉縣内の特約係、今年から社員に昇格した先般の總選挙で二、三回留置所にプチ込まれたとある。

上林多兵衛(蠶7) 田中君の後任として迎へられた蠶試技師、最近鴨川支場長を命ぜられ、四月六日に落成式が挙行されるので準備にテンテコ舞をして居る。

竹内虎夫(蠶9) 種屋の自營に離職することを断然限つて了つたが、食ふに困らぬ所が羨ましい。

小林憲政(蠶13) 昭榮製絲の特約係をして成東乾燥所を預つて居る。朝氣に乏

うも早く葉をふるう木が他にあるだらうか? 明朗な色香を誇る櫻、潔い散り際を有つ櫻、此の木にして此の悲哀なんだ、世の多くの入達は此の悲哀に氣がつかぬらしい。

筆者はそれ以來櫻を陽氣な木だとは思はなくなつた。寧ろ隠れたる此の悲哀を持つ櫻に同情するやうになつた。

然し多くの木の中にもつとつと淋しい果敢ない運命を有つて生れてゐる木もあるかも知れぬ。たゞそれを見出す人がなくまた見出される機會がないだけのことだ。

二十日午後六時までに千葉市の料亭一力へ集まつたもの七名——田中君からは『親戚ニ不幸出来行カレヌ宜シク』と電報を寄せ、櫻井君は出張不在のため通

久し振りで校長の温容に接した一同はたゞもう嬉しい、なつかしいの氣持で一杯であつた。満鮮長途の旅後休養の違

千葉に上田市柳町の出身で、その名もゆかしい『千くま』と呼ぶ酒場を出して居るマダムがある。芳紀正に二十有八、數年前死別した亭主に義理をたゞ、操守頗る堅固であるが、美貌と愛嬌と信州女特有のインテリ型とで人氣を呼んで居る。

開業當時千枚の文案で在葉長野縣人間に送つた廣告文に曰く、...

此稿を終つた處へ新井君から來翰——何時に變らぬ校長先生の御元氣な温顔に接し、愈々斯業に精進して母校の名譽を傷けざらんことの決心を堅く致し申候..... (一一・四・三)



左掲の寫眞は竹内君の舍弟の撮影にかゝる。向つて左から一若、本橋蠶絲課長、新井、校長、初勇、竹内、上林、高島、小林、菺田、佐瀬

草鞋後聞

きくだみ

「學藝は永へにして吾等の生は短かし。或る時は死を以て迫る宗教や政治の壓迫に抗して科學は榮えて来た。先人達の遺筆を受け繼いで俺達は進歩的に育てあげこれを次代の人々に渡さねばならぬ。幾多の捨石となつた無名戦士の遺業の上に文化の花は咲く。」

街、娘、花、山、水と上田を構成する總ての一ツツに残して来た淡い感傷があつた。歳と俱に消えて行くかも知れない。若かつたが故のこの感傷をせめて何處かに残して置き度いと思つて編んだ卒業記念のアルバムを巻頭に調體と數冊の本を配して綴つた石坂寫眞館快心の作と云ふカビホ大の下へ入れた語句である。次頁は校歌を空へ黒く出して空を仰いで高らかに謳ふ一群の吾々を、次へ玄關を眞下から見上げて濃く焼いたセピアをかき上げ第四頁から始めて校長、校旗と入れて行つた。どうして吾々が敢て調體と此語句を第一頁へ入れたか、鏡はれると思ふ。識つてか識らずか此のアルバムを抱へて出た三十八人の中の俺が一人だつたと云へば果してたゞ徒らに科學に弓を引き、學究的なるを呪ふ異端者とのみ云はれてよいものだらうか。僅々一頁あるかなしかの短文で對者の全部を想像に任せて筆を執る。同じく學究的と誇りつゝある同門の出の對者をとかく冷評し去るのには科學の殿堂に自ら獨り高しとする科學者にとつては少々冷靜を缺いた進退と思はれても或は止むなしとされるかも知れない。ちよつと言ひ過ぎたのかも知れない。

蠶絲業の凡ゆる方面へ科學的に吾々の同窓の多くが出て行つて多く開發した。そして他の誰よりも多く開發した。そして他の中からも多少なりとも蠶絲業の世の中から多少なりともその報酬として優遇されてもよいこととなる。勿論科學者は汚いと云ふだらうが。そして科學者自身にはそれだけの報酬があるかは知らない。しかし事實として吾々に報ひられるのは幾々吾々の活動範圍が狭められ縮められて行くのではないだらうかと云ふ現實である。たゞ景氣が景氣だからと云ひ切れない氣が何處かある様な氣がするのほまざら氣のせいでもあるまい。

と思はれる。とかう云へば世の科學者はさぞや學究的になり得ない者の愚痴に過ぎぬと云ふことだらう。世の中は持ちつ持たれつである。自轉車は動き出せば倒れない。けれども非常な曲折を極めた險阻な道路で前後から左右から絶えず吹きつけてくる半刻や一刻では落ちそうにもない性の悪い雨風があつたらどんなに巧みな乗手でも遂には倒れざるを得ない。この時道路に敷かれる砂利となつたり時には風雨を防ぐ道具ともなつたり一見くだらない役目をして居る科學者には衆愚と云はれるものゝ存在もさして重要なものではないと云ひ切れまい。

この衆愚になるためのテクニクとでも云ひ度い事柄がどの位程か、在學中に習得して出て来たとして別段専門學校令にもとるものでもないけれどそれ程迄いきり立つこともあるまいと思はれるが。専門學校は高等の學術技藝を教授するところであつて、學問の淵奥を究めるところではない。學術技藝は直接娯樂に關係がある。それを立派に會得した人間が娯樂へ出る當初の必要な物事を知らんと云ふこの方が餘程専門學校令の主旨にもとらぬの考へられる。寧ろ學校は學校、娯樂は娯樂と切り離して考へなければならぬのが餘程窮屈な氣がする。まして唯一の學生と娯樂と相通じて居る校外實習を止めると云ふのはどう考へても解せない。そんな學生が世の中のことを識るのが厭だつたら一思ひに學生の感覺神經の中で娯樂に縁のあるものは全部除去して學術と技藝ばかりを注ぎ込んで如何なる美人の顔でも表皮と眞皮と脂肪と筋肉と其の他を外げれば残るものは同じく白色の骸骨だけであると異性への智識は教へるがよいかも知れない。これは少し筆が少し迂りすぎただけである。

千曲川よ
お身は今日も亦靜かに流れる
入日に光る波音
銀の線を引いて泳ぐ魚

淡い感傷に渡るか娘達
山國の一日は又暮れて行く
涼しい風、長い堤

世の偉い人々は俺達を墮落したと云つたが俺達の心をほんとうに識つてくれたものは、千曲川よおん身ばかりだ。社會に對する解き得ぬ疑惑、生活の不安、おん身はいつともそれがためにいらだつ俺達の心を靜めてくれたおん身は流れて越後の海へ俺達は三年育てられてこれから娯樂へでは行かねばならぬ途へ

千曲川よ、その背敷具を洗滌した附近で三人の娘が川面をみつめて居る。夏の夕暮の風がすゞきに残つた。上田橋と遠い別所鹽田の山々がわずかに黒く見えると云つた景色と同じくアルバムに載つたセピアの下に入れた短篇である。あんた方の頃は娯樂が大手を擡げて迎へてくれたかも知れない。俺達は、來るのではなく、と手を並べて押し戻さうとさへして居る。行くべき途と行かねばならぬ途の差がそこにある。

相當の起伏があつたかも知れないが比較的安易な途を通つて現在何不足なく團圓して居られるあんた方には廿年程前の若い時代と比して確に俺達の言は異端者のそれに見ゆるかも知れない。餘程生意氣な青二才に考へられることもあるだらう。俺達でさへもそう思ふ。けれど、前記の短篇に見る様に、俺達がどんな複雑な感情を抱いて娯樂へ出なければならなかつたか。これ程迄深刻に娯樂を見つめて出て來たのか。

身勝手な考へ方ばかりではある。前の人々があの中の間分でも衆愚と云はれる人々にもつと多くなつて居てくれたのだつたら、と前記の事情を知らぬが故に寧ろうらめしく思ふのも無理からぬこと、御推察が願へませうか。

れば伏して面を擧げ得ない氣が動く。その他の方々は凡そこれと事變つて悠々自適して御座る。創立以來既に二十五年の歳月を経た現在俺達の心に湧いた、金語樓云々は今千曲會では中堅に位する人々にも何年程か以前から考へられて居ると云ふ事實があれば單に若いものゝ世迷言として捨て去ることも出来ないだらうと思ふ。

此の事に就いては、草野史郎氏の編んだ『アレカラ、五、一九三三』を見ればよく分る。ともかくも世の中は動いて行く。どうせ必要な事柄である上は、而も立派な科學者となり得るは極く少數であると云はれる様に殘部は衆愚のための必要なものを少しでも早く少しでも多く知らせてやるのが面倒な理屈を忘れて去つて親切なもの、と云ふのはなからうか。また今年もそう春だ。

決してこちらでは不良なんぞとは露骨ど考へて居ない。そんなつもりで云つたのではなかつた。充分立派な尊敬すべき大先輩と思つて居る。と云ふのだが、平和な家庭に風波を立たせたあつては誠に以つて申譯がない。どうか奥さんにも許してやつて戴き度い謹んで謝罪します。しかし驚いたのは、あんたは想像以上に厚い事である。何千かの無代で配付される千曲時報上に『吾々夫婦の仲はこんなものである』と一番鮮やかな處を擧げられた。廣告代はいらない。誠に見事な天晴れなお手際ひたすら感嘆の外はない。一つ驚いたことには俺が宛然不良化されて居ることであつた。あんたの奥さんならすとも何處かで誰か『まあ酷い事を書く人』と怨んで居るかも知れないぞ。が決して俺は不良ではない。酒は一合程で澤山、女は嫌ひでもない、身長五尺四寸五分、体重十六貫五百、心臓は内外と山小屋に起居して上信國境の山々は多少は歩いた。曲なりにもスキューレースにも参加した。三年の折三人の同志とそれ迄は山岳同好會だつたのを山岳部に突張つて押し上げた。そして堂々とその年から各部と伍して動かし始めた。

等々擧げればいくらもある。以て幾分でもお分りのこととせう。趣味として讀む本は國文學書、科學と數好きな人物は菊池寛、この人の書いたものなら大い讀んで居る。『戀愛と結婚の書』も買つて来た。割合に樂天家で他人に色々云はれても直ぐ忘れてしまふ癖がある。處は信州で、養蠶科二回卒業はまだ若い。従つてまだ女房はない。不良では決してない。なんなら千枝さんあんたの妹さんが無いのでしたら奥さんの妹さんかを(美人でなければ厭だ)俺に呉れてはどうだらう。そしてしばしば靜觀して戴けば、これが最も不良の適確な體明法であるだらうか。どうでせうかね。このプランは。

どくだみは俺の故家の裏の石垣に一面に生へて居る。それがどうしたことが去年ビタリと枯れたそうである。あれは吹出物の吸出薬として特效がある。と聞いたら居たが毒にも薬にもならんとは始めて聞いた。いゝ事をしたと思ふ。然し病が癒るか癒らぬかは一つにその藥品の化學作用に依る許りでもあるまい。『實に名醫は常にその心を以て病を癒す』と云ふ。少し負け惜みを張つた。

どくだみの名はどくだみをポツンと思ひ出したので書いて出したので別段意味はない。なるべく和やかに思つたがどうかする。と激しい言葉が入つて居るかも知れない。色々な方面にである。決して悪い心ではないのだからどうぞ悪しからず。

千曲時報がそろ／＼上田のニュースと同窓生の移動と死んだ通知と先生方の御感想ばかりだつた城を脱しかゝつて来た。これが本來の意味ではないだらうか。いゝことだと思ふ。

千曲川よ
お身は今日も亦靜かに流れる
入日に光る波音
銀の線を引いて泳ぐ魚

上田便り

織物産額減少 上田織物同業組合の二月中織物生産額は千三百八十二點六千八百八十二圓減て之は原料高に依る採算不引合の爲めである。

浅間山又々大爆發 近來盛んに爆發してゐる浅間山は又々三月七日午前十時三十分大音響大震動と共に大爆發し約三十分間繼續輕井澤地方一帯は暗黒と化し噴煙中には數條の電光さへ閃して壯觀を極めた。引續き午前十一時四十分同四十五分、午後一時と三回に亘り爆發があつた。

菅平スキー祭 菅平スキー場の壽喜伊神社大祭及び菅平スキー俱樂部創立十週年記念祝賀會は三月七、八兩日に亘り舉行された。

七日は午前十時から壽喜伊山神社祭典にて縣社山上神社の押森神宮祭司の下に執行同スキー場の異狀なる發展に對する感謝の祝詞を奏し嚴肅裡に祭儀を終り次いで菅平ホテルに同スキー場最初の發見者故坂井知巳氏以下功勞者廿五氏の表彰式を行ひ正午祝賀宴會を開いた。

同日は吉屋信子作『追憶のパラ』ロケーションの西條エリ子の一行が姿を見せに賑つた。八日は折柄の小雪にもめげず五百餘名のスキーヤーが集り午前十時より外人團も加つて壽喜伊山神社祭典假裝行列、同アマチュアスキー大會(太郎スロープに於て)午後一時よりジャンプ大會(太郎スロープ)があつた。

高等蠶絲講習會 三月七日より十日迄別所小學校に於て縣蠶業組合聯合會主催高等蠶絲講習會が開催され出席者は八百名に達したが講師及題目は左の通りである。

第一日(三月七日) 日高長野縣技師 桑岡改良に就て

一、育蠶の原理と其の應用 (一) 蒲生蠶專教授 第二日(三月八日) (二) 育蠶の原理と其の應用 (二) 蒲生蠶專教授

一、農村經濟更生の現在と將來 三好經濟部長 一、産繭處理の合理化に就て 荒井蠶絲課長

第三日(三月九日) 荒井蠶絲課長 一、蠶絲業の現在と將來 平田蠶絲局事務官

一、養蠶實行組合の使命と經營 片田全養聯主事 第四日(三月十日) 片田全養聯主事

一、絲價安定問題と生絲市場機構論 横濱貿易新報主筆 一、蠶品種の選擇方針と本縣指定新蠶品種の性状 水井蠶試場長

一、蠶品種の性状 水井蠶試場長 一、蠶品種の性状 水井蠶試場長

一、蠶品種の性状 水井蠶試場長 一、蠶品種の性状 水井蠶試場長

一、蠶品種の性状 水井蠶試場長 一、蠶品種の性状 水井蠶試場長

一、蠶品種の性状 水井蠶試場長 一、蠶品種の性状 水井蠶試場長

一、蠶品種の性状 水井蠶試場長 一、蠶品種の性状 水井蠶試場長

一、蠶品種の性状 水井蠶試場長 一、蠶品種の性状 水井蠶試場長

度上田市農救道路工事として昨秋十一月以來改修工事なりし中之條前田上田原線二百九十七米は三月廿五日竣工した。

蠶絲業研究七日會 蠶絲業研究團體「七日會」三月例會は廿七日午後一時蠶業試験場上田支場に開催

一、本縣蠶絲業調査會に於ける蠶品種改良に就て 齊藤蠶試支場長

一、本年度蠶種製造方針に就て 永田蠶取支所長

一、各府縣に於ける蠶品種の動向と比較に就て 母袋蠶種同業組合技師

外會員の研究發表等が行はれた。蠶絲業 蠶絲業法制定日を記念する第二回蠶絲祭は三月廿八日縣下一齊に行れたが上田市に於ては同日午前十時より小縣蠶業學校に於て祭式を舉行、次いで十一時講演會、午後二時より養蠶、果樹、蔬菜等の農産實習があつた。又上田織物商組合では廿八、廿九の兩日市商工會議所階上に於て絹織物の大廉賣を行つた。

浦里村ドリル工場開業 農村工業化の前提を行く浦里村の村營ドリル工場は日本農村工業協會大河内子爵の指導に依り工費三千七百圓を以つて既に五間に十二間の工場は竣工し同村産青聯盟員四君の柏原化學工業試験所に於ける數ヶ月の實習も了し製造機も三月十八日到着据付も終つたので愈々開業する事となり先づ十人位から從事せしめ漸次増員本格的作業に移る豫定であると云ふ。

新鹿澤温泉の内湯引込 北上州新鹿澤温泉の事業計畫は將來東洋第一の温泉地避暑地とするにありと意氣込んでゐるが第一期事業として本年は引湯工事の一大改善を行ひ従來の内湯を完成する豫定で今夏迄に各旅舎の内湯を完成する豫定で雪解の四月下旬から一齊に着工する事となつた。

獎勵品種決定 上小蠶絲業同業會十一年度獎勵品種に就て協議の結果特約組合の蠶品種を排撃して上小地方に適する獎勵品種を左の如く決定した。

鐘紡揚水工事設計變更 鐘紡上田工場揚水工事は一月千曲川中洲に着手延長七十米地下六米へ集水管埋設のため掘削りを行つた處、地質は單なる砂質でなく湧水困難な土層に遭着して設計の半分も出ないと云ふ豫定狂ひを招き設計變更する事となつたが方法は中洲伏流水の集水方法を廢し集水管七十米は當初設計に依る千曲河々底を横斷する同延長七十米の導水管の位置に於て六米の掘下工事を施し此れへ集水管を埋設、千曲流水の吸入を容易ならしめ揚水を企てるもので既に着

北信濃の春は朗らか!!

絲價も良くインフレに恵れて...

今年は五十年振りと云、七十年振りと云の大雪で陽氣は遅れ勝てはあなが四つも中旬を過ぎれば自から花もほころび初めやう。絲値も八百圓台を見せ前途樂觀の氣味であり且つは軍需インフレの餘慶もやうやく山國信州に侵潤して來た様であるからそれ、今年の春は朗らかに花見の催しも行はれる様である。

△上田觀光協會では四月廿二日から市制記念日の五月一日に亘り十日間觀光祭を舉行する。その間には舊城主を祀る松平神社や招魂社の祭典が行はれ上田城趾の櫻は雪洞によつて一段と興趣を添へる事にならう。

△別所温泉も觀光祭に參加し旅館、料理店、カフェーも觀光サービスをするローカンに客扱ひの改善に努め廿九日の天長節には藝妓、女給總動員の工、設計變更に依る豫算外經費は相當多額に上る見込である。然して之の揚水工事の爲め三月十三日から約一ヶ月間電鐵橋附近から中之條渡船場迄の北岸約七町位の川干を行ひ流水は城下側を通す。

所選購の演習 所選購飛行學校では三月八日より上田飛行場に於て第五十六期操縦學生の野外飛行演習を行ひ、吉田大尉指揮の下に教官石原大尉六名、學生栗澤中尉以下廿三名、其他地上勤務員等合計四九名で九二式偵察機三機、九五式練習機四機、無線自動車等に依り上田市春の上空に銀翼を連ねて野外航法離着陸合同編隊等の猛練習を行ひ十二日より三日間校長徳川中將の視察があつた。然して練習中途で飛行場は積雪が泥濘と化し飛行機は全く泥濘滑走を演じ機體を著しく汚損したが無事終了十五日歸校した。

超サーピスによるさくら祭を舉行する。お花見期間中は上田温泉電軌では電車賃の特別割引をして遊覧客の誘致に努める事になつてゐる。同社沿線の櫻の名所の重なるものを列記すると △殿城村矢澤城山公園 手提灯の名木 櫻で有名な櫻の名所 △傍陽村實相院 蛙合戦で有名なお寺である。 △丸子公園と岩谷堂 依田川の清流に臨み山水の美を併せた名勝岩谷堂のしだれ櫻は樹齡八百年を経て郡内の名木 △西鹽田村塔の原 古塔の寺前山寺の裏手獨鈷山麓にある名所、五月の十日頃が見頃で此處が此の地方のお花見の打ち止めになつてゐる。

入學試験問題 英語(英文和譯) (二時間)

- Do not talk about dress, either your own or that others. Perhaps you may see some boy or girl poorly dressed; but what of that? Cotton may be as clean as silk.
- "Please" is a very little word, but it makes a good many requests sound pleasant, that without it would sound harsh.
- Let us be true: this is the highest maxim of art and of life, the secret of eloquence and of virtue, and of all moral authority.
- The whole secret of remaining young in spite of years, and even of gray hairs, is to cherish enthusiasm in oneself, by poetry, by contemplation, by charity, —that is, in fewer words, by the maintenance of harmony in the soul.
- The peculiarity of the Japanese soldier in the Russian War was not the courage of daring, in which the Westerner quite equals him. It was the courage of selflessness: the willingness of the individual to lose himself as an individual in the whole.

数学 (二時間)

- 次ノ式ヲ簡單ニセヨ

$$\frac{1}{2} \log 5 + \log \sqrt{2} - \log 128 - \log \frac{25}{32}$$

$$1 + 2 \log 8 + \log 45 + \log \frac{15}{16} - 3 \log 3$$
- 圓O外ノ一點Pヨリ此圓ニ二切線PA, PB及割線PCDヲ引キ弦ABトOPトノ交點ヲMトスレバ, ABハ∠CMDヲ二等分スルコトヲ證セヨ。
- 次ノ無理方程式ヲ解ケ。

$$\sqrt{a^2 + bx} + \sqrt{b^2 + ax} = 2(a - b)$$
- $x + y + z = 6$, $x^3 + y^3 + z^3 = 36$, $xyz = 6$ ナルトキ, $xy + yz + zx$ ノ値ヲ求メヨ。
- 定圓ノ直徑BCヲ一邊トシテ, 定圓ニ内接スル三角形ABCアリ。今直徑ノ長サ4, AヨリBCニ下セル垂線ノ長サ $\frac{1}{3}$ 種ナル時, AB, ACノ長サヲ求メヨ。

教婦養成科入學試験問題

國語 (二時間)

- 抑も製絲教婦の主なるニムは彼の女工手に接して一面其ギジユツをシドウし其サギヨウをカントクするにあれども一面は其セイシンを陶冶し婦女としての教養を興へて他日のよきカタイ人たる素地を作るにあり。從て教婦は先づ自己のジユツカクを磨き身を以てハンを示すカクゴあるを要す。
- 讀方及解釋(次の文章を讀み傍線の箇所を説明せよ)
 故北白川宮能久親王妃富子殿下の御喪儀は春陽あれど霜風強き廿六日常磐木に霜どけも冷やかな豊島岡葬場へ御追憶の涙も新たにいと嚴かに執り行はせられ、日本婦人の御龜鑑として國民の齊しく御慕ひ奉る富子殿下の御在世七十五年もこゝ音羽の森に永遠に鎮まり給うたのであります。
- 作文希望

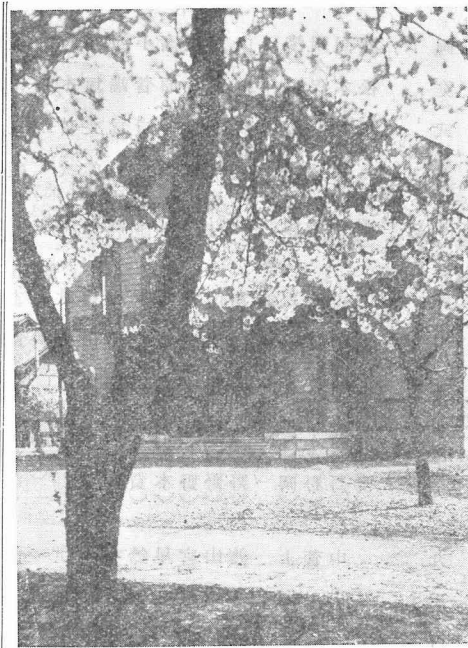
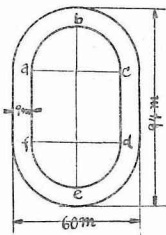
数学 (二時間)

- 次式ヲ計算セヨ

$$\left(1 - \frac{1}{15}\right) \times 2 \frac{1}{4}$$

$$\frac{7}{64} \times \left(1 - \frac{21}{25}\right)$$
- 圖ノ如キ縦94m 横60mノ校庭ニ幅9mノ走路ヲ設ケレバ走路内周ハ幾米ナルカ。但シabc, defハ夫々完全ナル半圓トス。
- 女生徒100人ノ所持金ヲ調査シタルニ30錢ノ者1人, 35錢ノ者5人, 40錢ノ者18人, 45錢ノ者52人, 50錢ノ者20人, 55錢ノ者3人, 60錢ノ者1人ノ割合ナリキ。然ラバ平均1人當リノ所持金何程カ。
- 次ノ聯立方程式ヲトケ。

$$\begin{cases} x + y = 3 \\ x^2 - y^2 + (x + y)^2 = 24 \end{cases}$$
- 職工ヲ雇ヒ入ルハ、働ケル日ハ2回ヲ與ヘ休メル日ハ賃銀ヲ與ヘズシテ食費70錢ヲ差引ク約束ナリキ。然ルニ30日ノ後46圓50錢ヲ支拂ヘリト云フ。休メル日數ヲ求メヨ。



母校ニユース

蹴球部卓球部の獨立 校友會では三月三日午後五時半より第四教室に於て臨時役員會を開き從來競技部、庭球部に附屬蹴球部(部長)古谷榮藏(委員)堀口稻三(委員)本庄昇(委員)若本一(委員)武田恒久(委員)上田實(委員)伊藤二男(委員)藤二男(委員)以上の獨立に依り左の通り役員變更を見られた。

文藝部特別委員 鷹野誠一(萩原清治の後任)
 辯論部委員 高橋卓爾(紡二)(伊藤二男の後任)

早川先生送別會 群馬社々長に榮轉された早川先生の送別會は急に三月三日夜五時半から市内線町うな藤に於て開催された。出席者は校長先生以下五十三名に達した。宴は校長先生の挨拶、早川先生の謝辭に開始された。宴中和田、石倉兩先生の送別の詩、阿形先生の諸曲録の早川先生の十八番の狂言調録があり、井上先生發聲にて萬歳の狂言調録が十一教室に於て談話會三學期納會を開催した。談話者、題目は左の如くである。

- 一、訓話 校長 先生
- 二、ベニー工業の實例 湯原 諄
- 三、解舒絲長の長短と添繕回数 鷹野 誠一
- 四、湿度と蠶兒眠中時間との關係 枇杷木瀧雄
- 五、フイブロン成分の比重 重 俊興
- 六、物理學のニユース 金子 先生
- 七、校友會雜誌記念號發刊 原田 先生
- 八、一回とし増大號とせる母校創立廿五周年

記念校友會雜誌三十號は三月十五日發刊されたが名に示す通り廿五年周祝の寫眞及記事が多數盛り込まれてゐる。例に依り支會長の手元へは一部宛贈呈された筈である。

北野三郎氏赴任 昨年三月母校紡織科卒業と同時に日出紡織株式會社に入社、母校人絹部に委託研究中であつた北野三郎氏は三月十五日午後四時廿七分上田郡日出町に赴任された。因に同日日出紡織株式會社研究所へ赴かれた。因に同日上田支店長鈴木半氏長女はな子嬢と三月十三日御結婚式を挙げ直に新妻同伴御赴任と云ふ喜び續いてゐる。

蒲生教授農學博士の學位を受く 母校教授蒲生俊興氏は三月廿五日の東京帝大教授會で同氏提出の『家蠶に於ける血組の發生及び機能に關する研究』の博士論文がパスし農學博士の學位を授けられた事となつた。同氏は養蠶科第一回の卒業生である。之れで同窓生中の博士四名母校卒業のみにて二人目である。

早川博士御赴任 先般組合製絲群馬社長に就任せられ本校を退職せられし早川教授は其後御子息等の學業の關係上尙

上田に住居せられしが愈々引拂はれ三月廿八日午前十時廿六分上田驛發にて御家族御同伴正式に御赴任せられた。驛前には母校職員、學生、市有力者、婦人會等數百名御見送申上げた。

入學試験 本年度入學試験は三月二十日上田、東京、名古屋、京都、岡山、福岡の五個所に於て執行された。教婦養成科は四月二日であつた。

志願者は三月十三日締切にて養蠶科一五一名(前年一二五名)、製絲科二八二名(前年一三三名)、紡織科二五六名(前年二七四名)、合計六八九名(前年五三二名)教婦養成科は三月廿五日締切にて二四名(前年一四名)であつた。

三月廿八日の教授會に於て養蠶科三七名、製絲科四五名、紡織科二五名の入學許可を發表した。教婦養成科は四月二日に十七名の入學を許可した。

入學許可者氏名は補欠もあるので來月號に掲載する事とする。試験問題は別記の通りである。

學年試験及休暇 三年生の授業は二月廿八日迄で三月三日より九日迄學年試験となつた。一、二年生は三月十三日迄授業十七日から廿四日迄試験、廿五日から四月十日迄學期末休暇となつた。

卒業證書授與式

第十三回卒業證書授與式は三月十五日午前十時より講堂に於て舉行された。式は先づ校長より各級總代に卒業及修業證書を授與し次いで學校長式辭として有益なる後進の辭(第三面所載)を與へられ引續いて文部大臣祝辭(井上教授代讀)長野縣知事祝辭(新井鐵線課長代讀)及び成澤上田市長、縣下中等學校長代表(今村小縣黨學校代表)、縣會議員代表(瀧澤一郎氏)、實業家代表(伊藤傳兵衛氏)、新聞記者代表(武市北信毎日新聞社長)、千曲會代表(依田寛之助氏)の處世訓を交へたる祝辭があつた。次いで祝電五十三通の披露、在校生總代矢崎勝君(紡)の送辭、卒業生總代渡邊綱男君(絲)の答辭があり最後一同校歌を合唱して式を閉じた。式後遊樂に於て來賓、卒業生父兄、母校職員及卒業生の懇親會があり、宴中針線校長より挨拶、成澤上田市長より來賓を代表し謝辭があり、程よき時成澤市長發聲にて萬歳を三唱して散會した。卒業生氏名及祝辭は左の如くである。

第廿三回卒業生氏名 (五十音順)

Table listing graduates by name and department. Columns include names like 出野正雄, 北原至三, 坂本勝三, etc., and their respective departments like 井口科, 川口科, 久保田科, etc.

祝辭

文部大臣 潮 惠之輔

卒業生諸子、諸子は志を立て、本校に學び多年積雪の功を立、本日茲に卒業の榮を荷ふ是れ獨り諸子の爲に祝福すべきのみならず邦家の爲に慶賀に堪へざる所でありませぬ。

祝辭

長野縣知事 近藤 駿介

本日上田蠶絲專門學校の卒業式に當りまして所懐の一端を申述べますことば私の欣幸とする所でありませぬ。

祝辭

千曲會々員總代 依田 寛之助

本日母校第二十三回卒業證書授與の盛典を擧げらるゝに當りまして新鋭なる諸君を迎へ敬て祝辭を呈することの機會を得ましたことと我等同窓生の誠に欣幸とする所でありませぬ。

答辭

卒業生總代 渡邊 綱男

本日の朝野賞賓の賞臨を辱うし茲に第二十三回卒業證書授與式を舉行せられ文部大臣閣下を首め來賓各位の祝辭と校長閣下の訓示とを賜り更に先輩並に在校生諸君の激勵の辭に接す。生等の光榮感激これに比するものなし。

送辭

在校生總代 矢崎 勝

時哈も陽春に入り梅花の芬華梢に満ちて鶯の至るを羨み春の濃かならんとする時茲に本校第二十三回卒業證書授與の御盛典を擧げられ朝野賞賓の光臨を辱ふし校長閣下の御懇篤なる御訓辭に見え兄弟が光榮此れに過ぎる物なきを感ず。夫れ功は一朝にして成るに非ず。兄弟今この朝野賞賓に對し、萬苦を忍び功を遂げしめて學ぶところに精勵されし結果と校長閣下を始め諸先生の御薫陶に依るの結果にして在校生の衷心より慶びを感ずる所なり。

密重なるも今や過去の返らぬ數の内に入らんとす。その間兄弟等が情誼を想ふ時感謝思慕今別離の情轉禁する能はず。然りと雖も兄弟等は進んで國家の難局に當らんとす。生等輩私情の爲に憚たるものあらんや。向後益々生等のため御指導と御鞭撻あらば生等の喜これに過ぐ御指導なし。

纏つて現今社會の勢を惟ふに今や國家の内外は共に極めて多難にして國民一齊奮起を要するの時なり。就中我等が蠶絲業並に紡織業は我國産業の樞軸たりと雖も今や世界的不況に直面しそれ前途たりや尙多難にして樂觀を許さざるものあり。斯の如き時に際し兄弟等は校門を辭し其の蘊蓄を斯業の開發に傾け以て國家の興隆社會の進運に寄與せんとす。兄弟等の前途實は洋々として多難なり。努力以て今日の榮譽を辱しめず本校教育の主旨に従ひその恩義に報せらんとす。希望して止ませぬ。

終りに臨み兄弟等の御健勝と御多幸を祈り在校生を代表し聊か燕辭を述べて送辭とす。

茲に恩師の尊き教訓を深く感謝し各位の御多幸を祈りて答辭となす。

本會記事

本會日誌

三月九日 新入會員の歓迎茶話會開催
三月十三日 權寧九氏(絲十)逝去せらる
三月十四日 入學試験官出張に付關係方面へ依頼發す
三月十四日 理事會開催、蠶絲學雜誌經營の研究す
三月十五日 評議員會開催右同件審議す
三月二十八日 本會常任監事川船卓爾氏の送別會舉行す
三月三十日 林太郎氏(紡三)工場火災の爲殉職せらる、弔電を發す
四月一日 栃木縣廳火災につき御見舞の電報發す

會費領收

(四月五日現在)

昭和十年度通常會費納入者
(〇印は蠶絲學雜誌代共)
〇太田慎一郎(蠶六) 日野 光平(蠶八)
〇加々井精喜(蠶十) 〇上杉慶次郎(蠶十)
〇市村志真(蠶十) 〇鈴木 茂(蠶十)
〇手塚 達郎(蠶十) 〇陶山 專三(蠶十)
〇大塚 重藏(絲八) 〇蒲生 勇一(絲十)
山本奈良三郎(絲十) 村田 借宣(絲十)

蒲生農學博士

S Y 生

蒲生教授は兼ねて東大農學部に研究論文提出中であつたが、去る三月廿五日の教授會に於て見事難なく通過せられた。月桂冠農學博士の學位が授與された。動物の高等なると下等なるとを問はず循環系統或は代謝作用の研究は、消化、呼吸生理等と共に最も重要な研究の一である。

急告

曩に母校二十五周年記念織維工業學會學術講演集豫約者に對し至急代金引換現品受領方廣告致置候處今以て御引取無之向も有之取扱上甚だ困却致居候に付此際至急處置致度就ては本紙受取次第即刻左記御取扱下度此段重ねて廣告候一部 金貳拾錢(送料共)代金引換送金方法 振替口座長野六二四三 上田蠶絲專門學校千曲會

蠶學談話會(第四回)通告

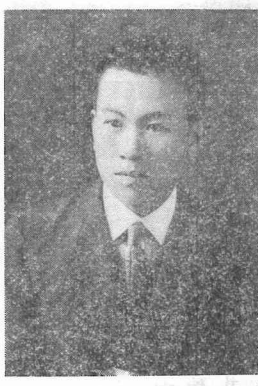
日時 四月二十六日(日曜日)午後一時より
會場 上田蠶絲專門學校病理學教室
講師 農學博士勝木喜重氏
演題 ノーベル賞を得たるモルガンの博士の業績に就て
特別講演でありますから奮つて多數御出席せられん事を希望いたします。(係)



蒲生農學博士

過去に於ける數多の貴重なアルバイトも参考論文として提出されてゐる。
拙て筆者が改めて茲に記す迄もなく蒲生教授は校内に於ける最も重要多忙な人の一人である。一方には學生の講義に、又實際の事務應接等にいとまなく、傍ら或は講演に、雜誌への執筆又は著書等に全く寧日なく、殊に千曲會の爲には事毎に陣頭に置かれてゐる体であつて、その暇に何時の間にか之の間の實驗、研究と讀書がされてゐるのかと常に傍にゐるものさへが驚嘆せざるを得ない精力振りである。殊に餘り頑健ではない體質の保持者であられるのに之が爲に決して新鮮な希望を打ち挫かれない事なれば計りつゝ遂に今日の榮譽を勝ち得られたのであつて之は全く神の恩寵であると信仰の強い教授は謙遜してゐる。

三月廿八日午前一時福島縣石城郡錦村昭和人絹株式會社錦工場(日産十五噸)に於て乾燥機より出火、木造バラツ建工場なる爲め火の廻り早く折柄社に就寢中なりし林太郎氏は自分の持場の火事の報に直ちに駆けつけ消火に盡力主に仕上室に延焼するを防がんとせり。然るに火は仕上工場をも呑むに至つたので消火に盡力せる者大部分は逃れ出で林氏も職工に引出されたるも再び入場し焼跡より三名の職工と共に遺骸を發見せる。然もその状態たるや精練室と仕上室の境の處にホースの筒先を持ち消火の姿勢其儘にて死し居り逃れんとせる模様なし。



殉職事情

故高山裕氏弔慰金第四回
金壹圓也 宮澤 勇
累計金拾七圓也

弔慰金報告

故高山裕氏弔慰金第四回
金壹圓也 宮澤 勇
累計金拾七圓也

御遺族よりの禮狀

諸啓先般家兄權寧九永眠の際には御懇篤なる御弔詞を辱うし加之御鄭重なる御供物を賜り御芳情定に難有奉深謝候
先は乍略儀以書中御挨拶申上度如斯御座候
昭和十一年三月十五日
千曲會御中 權 寧 萬

叙任辭令

舊職員之部
從四位勳五等 早川 直瀨
從四位勳瑞寶章(三月十一日)
卒業生之部
正六位 松村 季美
從五位(三月二日) 地方農林技師 寺島 親雄
福岡縣農林技師ニ補ス(三月十四日)

訃報

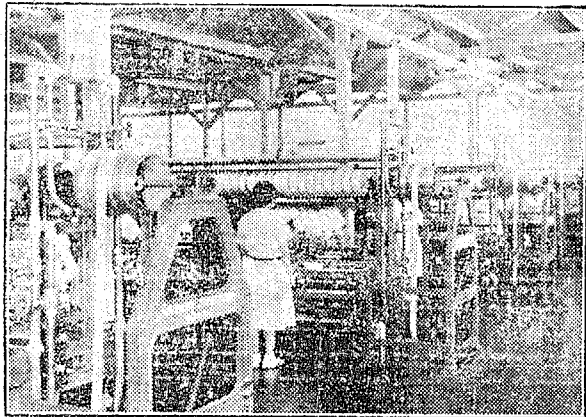
逝去通知
權寧九氏(絲十) 三月十二日逝去
御遺族は左記の如くである。
朝鮮慶北大邱府東雲町一三〇
令弟 權寧 萬氏
逝去通知
林太郎氏(紡三) 三月廿八日逝去

弔慰金募集

本會々員 故佐藤壽雄氏(絲十)
同 故權寧九氏(絲十)
同 故林太郎氏(紡三)
右三氏に對し弔慰金を募集致しませう。故佐藤氏は四月末日、故權寧九氏は六月末日迄に取組め御遺族へ贈呈致したいと思ひますから其れに間に合ふ様振替口座東京四三三四一番へ夫々故人に對する弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい
昭和十一年四月十五日
千曲會

式宗大 機絲繰條多

(リナ宗大ノ易貿出輸國我ハ絲生)



用兩線沈沈半

機繭煮流對透滲氣蒸式宗大 許特賣專 案新用實

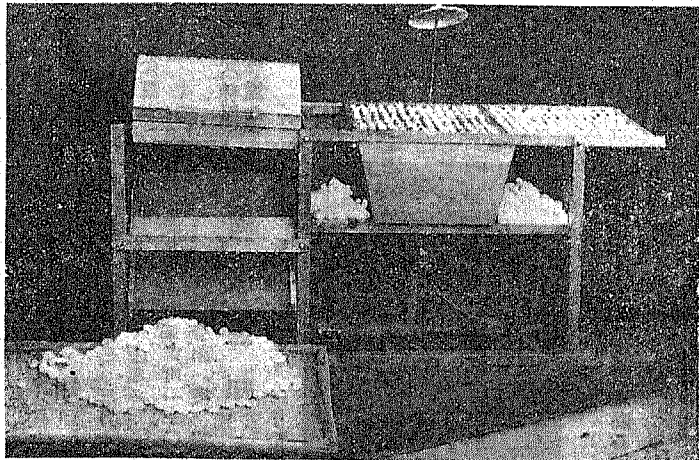
元販販造製械機絲製諸式工群

所作製山平

地番五〇一町向市橋前縣馬群
番二四五七五替振 番五八一話電

號三六六七一二許特

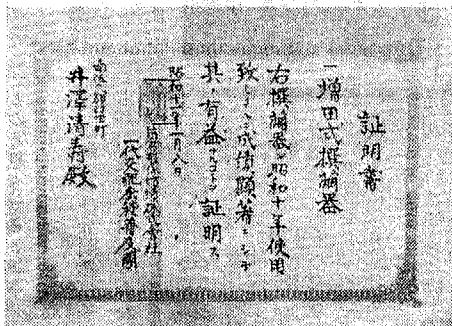
機繭撰式田增



蠶種製造者ノ必備品

各蠶試蠶業取締所推獎品

機本 鑑別正確ニシテ殆ド百分
選繭能率大ニシテ一時間七貫
以上
晝夜ノ晴雨ヲ論ゼズ鑑別可能
軟化病蠶死繭モ選繭出來ル



蠶蛆驅除界ノ革命機
選繭正確蠶蛆撲滅

店商島宮 資合會

絲機 蠶機

號一十函書私市田上縣野長
番〇八一・番六一一長特(田上)話電

會員動靜

(四月一日現在)

- 早川 直潮(蠶三) (勤)前橋市外元總社村、群馬社(住)同社宅
- 芝 荒雄(蠶三) (勤)從前通(住)名古市中區雲見町一丁目四番地
- 田附由治郎(蠶五) (勤)岩手縣黒澤尻町本町、岩手縣是製絲黒澤出張所
- 小島 杉門(蠶八) (勤)群馬縣佐波郡塩町、群馬縣蠶業取締所塩支所
- 種村 忠義(蠶四) (勤)福島縣梁川町、福島縣蠶業試驗場
- 片山 次夫(蠶一五) (勤)岐阜市長住町三丁目、東亞蠶絲商會
- 坂田 武(蠶一六) (勤)長野市岡田、長野縣蠶業試驗場
- 淺見 安治(蠶一七) (勤)從前通、飯塚ト改姓
- 中澤 喜雄(蠶一八) (勤)東京市杉並區東田町一丁目三十三番地
- 川船 卓爾(蠶一〇) (勤)下伊那郡那須村、下伊那農學校
- 權 寧九(蠶一〇) (勤)ナシ(住)長野縣東筑摩郡島内村三八二八
- 和田 虎三(蠶一〇) (勤)ナシ(住)京都府加佐郡由良村東崎
- 五島小太郎(蠶一五) (勤)三重縣鈴鹿郡龜山町、龜山製絲本工場
- 島原友之助(蠶一五) (勤)神戸市須磨區潮見台町五ノ七二
- 黒木 藤雄(蠶一九) (勤)熊本市池田町、那是熊本工場
- 田中 齊(蠶二二) (勤)ナシ(住)愛知縣寶飯郡御津町大字下佐脇
- 林 太郎(紡三) (勤)昭和一年三月二十八日死亡
- 阿久澤孝典(紡四) (勤)神戸市上野丸一ノ七六三三竹内方
- 北野 三郎(紡一四) (勤)京都府加佐郡舞鶴町眞名井通一丁目、日出紡織舞鶴研
- 伊藤 幸枝(舊教六) (勤)今治市外富田村、日東製絲株式會社愛媛工場
- 小林 敏子(舊教六) (勤)熊本市大江町六〇五、長野製絲所

編輯室より

△三月號編輯後記に頁數増加の一因として早川先生送別記事があつた事を擧げて置き乍ら本文に何も書いて無いのを不思議に思はれたのであろう。之の事に就いて少し申譯しなければならぬ。三月號の編輯に於て編輯子の誤算から印刷所に渡してしまつてから原稿の一部が遺入り切らぬ事を發見した。それで仕方無く早川先生の記事を來月廻しとし記事の間隔を引延して漸く體裁を整へた。然し編輯後記の部分は既に印刷済なのでどうする事も出来ない。その結果があつた様な自家撞著を生じた譯である。

△二月號も三月號も發行期日が遅れ今月は又其れに輪をかけて遅らせてしまつた。何んとも申譯が無い。來月からにはせいぜい遅れない様にふん張る積りである。

四月の休暇は普通だつたら一年中最も暇な時である。だから今月こそは期日通り

に出されると思つてゐたのに突如三月廿八日編輯子の岡林君の殉職事件が起つた。それで廿九日に現場へ急行、四月五日遺骨と共に歸田、それから葬儀と十一日送葬して時報の編輯を開始したのが十二日と云ふ譯になつてしまつた。何卒願とせられん事を。

△學校のストープが無くなつた事と新聞のニエースの花便りが我々に春を預言する。然し菅平は眞白でスキーが出来る程だし、毎日の出勤にはオーバーを着て行く、櫻の蕾は堅いと云ふ状態でそんな氣持には更にならぬ。強いて春の匂ひを求むれば二、三日前から梅が咲き出した位なものである。

本年春種

○普通蠶種
×國蠶支一〇六號
×國蠶支十七號

○原蠶種
國蠶日 八號
國蠶歐 十九號
國蠶支 十七號
佛 純白 蘭
分 離 白 一號
國蠶日 一一一號
國蠶支 一〇七號
國蠶支 一〇六號
何レモ無毒

右餘裕アリ御入用ノ方ハ
御照會ヲ乞フ

廣島縣御調郡奥村綾目八袋
蠶種業 小川 保
振替(廣島)二四六番
(大阪)三七三番